

C-70 イメージ用語によるシルエットの分類化
大阪市大家政 ○上野清一郎 青山幸子 森田志保

目的 今日消費者の衣服の好みが個性化、多様化しているとき、衣服美の視覚的因子の1つであるシルエットに着目し、これをいくつかの要因・水準の組合せに基づき二次元で表示できる莫線面を用いて数多く作成した。そしてそれらのいずれに美的なもの、動的なもの、などを感ずるかを、イメージ用語によるパネルの応答から数値化しこれらの解析から同一範疇に属するシルエット群の分類化を試みた。

方法 まずシルエットの基礎になる成人女子の基本体型の作図法を試案し、服種をワンピースとしてつぎの要因・水準数を定め、合計180種(2×3×5×6)の平面シルエットを作成した。

要因	A(ウエスト巾)	B(ヒップ巾)	C(すそ巾)	D(服の丈)
水準数	2	3	5	6

これをパネル40名に対し、代表的な5つのイメージ用語(両極)で答えてもらってこれを数値化し、このデータを基にパネル全員の総得点によるマクロ的解析と、パネル個々の得点の与え方を考慮したミクロ的解析(多変量解析によるクラスター分析法)の両方から、シルエットに対するイメージ要因を探った。

結果 マクロ的解析としては、四元配置法の分散分析の結果、C要因次いでD要因がイメージを大きく左右し、交互作用効果は、B×C、C×D などが有意となる。またマクロ的な符号分類とミクロ的なクラスター分析との、相異なる分類法を行ない、これらに共通して同一範疇に入るものをもって、各イメージ用語を通して同一イメージを有するシルエット群であるとし、そのようなシルエット群の分布を求めた。